

地域看護管理者

としてどうありたいか

～東日本大震災の経験を通して～

登米市市民生活部健康推進課

佐々木 秀美

(8月20日 宮城県看護協会ミニシンポジウム)

大震災・・・登米市の状況

★3月11日 14:46 震度6

ライフラインストップ

- ・水道：市内全域断水・・・給水車による給水

3月25日全域通水

- ・電気：全域停電

1週間以内に市内全域復旧

- ・電話：一般電話回線、携帯電話ほとんど不通

3月21日までに全て復旧

【市民への情報伝達は コミュニティFM(H@！FM)】



大震災・・・対応の概要 ①避難所

◆避難所の開設・運営

3月12日(開所時):53箇所 5,485人

3月14日(ピーク):49箇所 6,230人

[市内 5,690人
南三陸 540人

◆自主防災組織

市内 79組織 2,891人 ……ピーク時

地域の集会所等を拠点として、安否確認や食材の持ち寄りに
よる炊き出しの実施など一時避難所の自主運営

* 随時避難所を閉鎖、現在は南三陸からの避難者の受け入れを継続



大震災・・・対応の概要 ①市外からの避難

◆市外、特に南三陸からの避難者の受け入れ

震災直後から南三陸を中心に避難者が増えてきた。
登米市では積極的に受け入れるという方針で対応

・受け入れ状況

3月12日～

4月23日 11施設 833人 ……ピーク

7月25日 10施設 340人 +福祉避難所



閉鎖の方向最終8月22日



仮設住宅へ



大震災・・・対応の概要 ②仮設住宅

◆津山町横山住宅

①59戸 4月29日～入居

②22戸 追加建設

◆南方町旧ジャスコ跡地

①200戸 6月11日～入居

②150戸 追加建設

◆建設中 54戸

◆さらに候補地提案中

1, 500人以上住まれることが予想される。



保健師の動き ①

【フェーズ0】 48時間以内

- ・各避難所の中で、運営スタッフとしての業務
- ・市外からの避難者への対応
- ・来所者の相談業務
- ・情報の共有

* ライフラインがストップする中、人が集まってくる。
現場での救急対応 と 生活支援に迫られる。
情報が伝わらない中での業務に四苦八苦

* [事件は現場で起きている]を実感
津波の被害から避難してきた方々の緊張感と不安の大きさに
淡々と目の前に迫ってきたことを進めていくのみ
過呼吸、てんかん発作、けが、救急車呼べない
➡ マニュアルなど意識できない！



保健師の動き②

【フェーズ1】 2週間以内

- ・健康相談

南三陸からの避難者へは服薬確認、医療機関への送迎

- ・緊急医療の確保と連絡

- ・透析、在宅酸素等の医療の確保と連絡

- ・食事の供給支援

- ・保健所との連携

毎日、目の前のことに振り回され、困っている人をこのままにしてはおけないという、正義感に突き動かされている思い。

でも 少し回りが見えてきた！

やるべきことをマニュアルを見て整理・連絡を



保健師の動き③

【フェーズ2以降】 南三陸の皆さん中心の対応に移っていく。

・避難所健康相談対応

保健師交代勤務 → 志津川病院看護師

→ 臨時看護師雇用へ(市の災害緊急雇用対策事業から)

・登米市民へのサービスは、計画どおりにという方針

メンタル等の困難ケース課題みえてくる。心のケアチーム応援あり ほっとする。



他からの支援の調整業務が入ってくる。

現場の調整はしているものの・・南三陸への支援！

登米市の考えのみで判断できない難しさ



反省：災害対応の中での保健師

◆課内のチームとしての役割分担

単発で、医療的な関わりが必要なことは期待される。

保健師自身「これは保健師に任せてほしい」が明確になっているかな。地域のキーパーソンの把握！

～保健師自身が地域を知っている～

◆組織としての命令系統

大きな動きの情報が止まってしまふ。

その中で、保健師の動きが孤立したものになっていく。

任せられている？期待されていない？

ひたすら一生懸命働く！

何か事が起きれば保健師は何をしている！

～組織の中で保健師職能の位置づけを明確に～



◆保健師同士の役割期待

支所・健康推進課・福祉事務所等に保健師は分散配置

本庁業務(縦の糸)がすべきこと

支所業務(横の糸)がすべきこと

～保健師同士の役割自覚と理解～

◆日頃の目的の共有

何をすればいいか、指示を待つ。マニュアルへの期待が多くなっていなかったか？

事業をする場合状況、対象によって方法は幾通りもある。要、何のために！の共有があるか否か。

～常に何が目的かを探り当てながら動く～

～目的を意識した行動の習慣化～



自治体の同士の関係に思う

新たな関係の構築・・・南三陸町との関わり

南三陸町 ・登米市の 微妙な関係

人與人 困っていたら支え合うのが当たり前！！

でも・・・自治体同士の関係は微妙

住民票をどこに置くかだけなのに、大きな問題

予算・受けるサービスの違い・担当する者・・・

・保健師職能同士の思い

思いやり！これを任せたら大変だろう。だから・・・という遠慮

でも、事件は現場で起きる！！！！

初めての感覚

市の組織の保健師としての本来の業務の遂行



市内で暮らす南三陸町の町民の今後の暮らしを支えたいと思う気持ち

それぞれの自治体職員という立場・・・交錯する思いあり

★広域という考え方・・・今こそ県の保健師と共に！を実施していきたい



今後の展開に向けて

今後、仮設住宅は長期的な住まい

基本、南三陸町の方針でサービス展開。

登米市に生活実態があり、地域の課題となっていくことを想定

- ① 国の方向としては、包括支援の再構築の提案あり
- ② 登米市・南三陸町執行部同士の協議
- ③ 保健師職能の協議の継続、思いの共有は必須

その基本は、やはりケース対応！その中から、地域での暮らしに広がることを実感している。

